

第7回日本総合歯科学会総会・学術大会の報告

竹 重 文 雄 (大会長)

長 島 正 (実行委員長)

第7回日本総合歯科学会総会・学術大会は、平成26年11月28日、29日、30日の3日間にわたり、大阪大学歯学部附属病院口腔総合診療部の主幹により大阪大学コンベンションセンターにて開催されました。

新生日本総合歯科学会として2回目となる今回の学術大会では、これからの総合歯科学のたゆまない進歩を指向して、テーマを「総合歯科から生涯学修を考える」とさだめ、特別講演を2題に加え、課題講演1題、ランチョンセミナー1題を企画しました。一般口演発表は13題、ポスター発表51題（若手セッション40題、一般セッション11題）の発表がありました。学術大会参加者は200名を越え、活発な議論がなされました。

特別講演Ⅰでは大阪大学大学院歯学研究科の今里聡先生に「修復治療のパラダイムシフトと次世代型材料」と題して、生体機能化した修復材料等が必要な時代になりつつあることを、最新の修復材料開発の現状を交えてお話しいただきました。

特別講演Ⅱは豊中市開業の山本浩正先生に「歯周治療を通しての“学び”」と題してお話しいただきました。本講演は日本総合歯科学会の第1回生涯学修公開セミナーも兼ねたものとして企画しており、非会員の皆様にも広く参加を呼びかけ、本学会として社会貢献の一端を担うことができました。

課題講演は「日本総合歯科学会・認定医制度に向けてのキックオフ」と題して、座長の樋口勝規先生（九州大学）のもと、伊藤孝訓先生（日本大学松戸歯学部）、河野文昭先生（徳島大学）に歯科における専門医制度の在り方、日本総合歯科学会・認定制度の概要についてお話しいただきました。

また、ランチョンセミナーでは、茨木市開業の伊藤中先生に「日常臨床から考えるカリオロジー」と題してう蝕治療の現状についてお話しいただきました。

若手ポスターセッションは本学術大会の特徴の1つですが、今回初めての試みとしてオーラルポスターセッションとして企



特別講演Ⅰ 今里聡先生



特別講演Ⅱ 山本浩正先生

画しました。すなわち、演題数が40題と多数に及んだことから、公正な審査を実現するために、ポスター掲示に加えスライドを用いたショートプレゼンテーションを実施しました。いずれの発表も非常にレベルの高いものであり、理事による投票の結果、最優秀賞として九州歯科大学の栃木美保先生が、優秀賞として岡山大学の小野早和子先生、日本大学の角田茉莉先生、鹿児島大学の石井宏明先生が、学生優秀賞として昭和大学の漆畑葵さんがそれぞれ選ばれ、閉会式にて表彰されました。

懇親会は大学内の福利会館2階の食堂にて行われ、約120名の参加者が集まり、活発な交流がなされました。

最後に、本学術大会を開催するにあたって色々ご指導いただいた小川哲次理事長を始め役員の皆様、特別講演、課題講演、ランチョンセミナーなどの講師・講演座長を快くお引き受け頂きました皆様、協賛いただきました企業の皆様、そして本学術大会にご参加頂きました会員及び非会員の皆様に心からお礼申し上げます。



若手ポスターセッション



若手ポスターセッションの表彰